

テーマ

# この地域で生きていく

～つながり合い・支え合いの大切さを学び、災害に強い地域を目指す～

事業実施地区（中学校区名）	美郷町立大和中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	都賀公民館、比之宮公民館、都賀行公民館

## テーマの背景

近年日本各地で地震や豪雨による大きな災害が発生し、地域においても防災に関する関心は高まっている。しかし、「災害が起こっても行政がなんとかするだろう」と思っている住民は少なくない。また、東日本大震災から6年が経ち、あの出来事を覚えている小・中学生は今ほとんどいない。いじめを苦にした災害避難者の自死という痛ましい事件を報道で目にすることもあり、震災の記憶の風化は深刻であると感じていた。そこで、災害に関する心構えを持ち自ら動ける人材を育成すること、被災者を思いやる心を育むことを目的に、避難所体験を開催したいと考えた。

## 実際の取組

### ③子どもたちに伝えたいテーマ・題材の事業実施

事業名：やってみなきゃわからない！親子でひなん所体験！

#### <取組の概要>

#### 1 先進地視察

下関市防災安全課主催の「夏休み親子避難所体験」視察。市役所担当との面談も行い、学びだけでなくイベントとしての楽しさも必要だということ、色々な団体と普段から連携しておくことが緊急時の体制づくりに必要だとわかった。

#### 2 他団体との連携

大和小学校、大和中学校に会場（体育館）の提供や、児童・生徒とその保護者へのPRについてご協力いただいた。

美郷町役場総務課には避難物資・非常食の提供や事業についての助言をいただいた。

美郷町消防団女性分団には、避難所の設営について講師をお願いし、非常用トイレや避難スペース設営のデモンストラーションをしていただくことにした。



<取組の概要>

3 当日の様子

土砂災害による道路寸断・断水などが起こった想定で実施。

参加者：小・中学生とその家族（28名）

スタッフ：公民館、美郷町消防団女性分団、大和小学校、  
美郷町役場総務課、美郷町教育委員会

内容：(1)ダンボールで避難スペースづくり  
(2)断水を想定した調理  
(3)避難物資等の使用体験

自ら考えて動くことを目標としているため、(1)では組み立て方などの指導をせず、限られた枚数でいかに快適に作れるかを各家庭に試行錯誤してもらった。収納付きテーブルやコンパクトに畳める台など様々なアイデアが生まれた。(2)では、断水時に食器を洗うことが難しいと説明し、ビニール袋を活用した節水クッキングを行った。包丁を使わず洗い物が出ないため、家でも使えそうだとされる参加者もおられた。(3)では、ダンボールのベッドや、緊急用トイレに実際に座ってみる体験をした。

自分たちで作った避難スペースで食事を食べ、ここで何日も過ごすことができるかなど、様々な思いを巡らせてもらうことができた。



<成果と課題>

目的の1つである「災害に対する心構え」については、参加者の様子から意識付けができたと考える。また、「周りの人と協力する大切さ」についてアンケートに書かれた参加者が多く、長期目標である「助け合いができる」について取り掛かりとなる体験にすることができた。また、事業を進めるうえで公民館職員にとっても勉強になることがたくさんあり、今後の活動に役立つと感じた。課題として、実際の避難所で起こっている問題等があまり取り上げられず、避難生活を余儀なくされた方が直面している困難な部分がうまく伝えられなかった。被災者を思いやる心を育むための仕掛けに改善が必要だと感じた。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

○若い世代に学ぶことを楽しんでもらう

内容が良くても楽しくなければ継続しない。次年度以降も継続していききたい事業であるため、リピートしたくなるよう大人も子どもも楽しめる工夫を凝らした。

○つながりの輪を作る

緊急時はどんな人とも協力して支えあう必要がある。訓練のうちから地域・学校・行政・関係機関が関わり合い、互いを知ってつながり合えるよう、各団体へ協力要請した。

今後の展望

災害を想定した体験や訓練は繰り返し行うことが重要だと考えているため、今後も継続して行っていきたい。また、今回は自衛隊による防災講和や起震車の体験、作った避難スペースでの宿泊を計画し、準備を進めていたが、様々な事情により急遽、予定を変更せざるをえなかった。今回の成果や課題を活かし、再度チャレンジしようと考えている。

～公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業～  
公民館ふるさと教育推進事業 取組事例